いずしおよび切り込みの細菌汚染,食塩濃度,水分活性および遊離アミノ酸組成について

Bacterial Contamination, Salt Contents, Water Activity and Free Amino Acids Composition of "Izushi" and "Kirikomi"

角野 猛* 日野明子*

子* 金成朋恵*

(Takeshi Sumino)

(Akiko Hino)

(Tomoe Kanari)

会田久仁子**

角野幸子**

山田幸二*

(Kuniko Aida)

(Sachiko Sumino)

(Koji Yamada)

Bacterial contamination, the amounts of sodium, potassium, and salt, water activity and the free amino acids composition of "Izushi" and "Kirikomi" were examined. The results were as follows:

- 1. Bacterial counts isolated from "Izushi and Kirikomi" were $10^3 \sim 10^8/g$. The detected ratio of coliform organisms, *E. coli* and *Staphylococcus aureus* of "Izushi" and "Kirikomi" were 5.6%, 0% and 0%, respectively.
- 2. The averages of contents of salt and potassium, and water activity of "Izushi" and "Kirikomi" were 2.7%, 84.6 mg/100 g and 0.93, and 6.7%, 88.9 mg/100 g, 0.89, respectively.
- 3. The total amounts of free amino acids of "Izushi" and "Kirikomi" were $108.9\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}\sim809.3\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}$, and $374.6\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}\sim1,118\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}$, respectively. The major free amino acids of "Izushi" were glutamic acid, glycine, anserine and leucine, and the major free amino acids of "Kirikomi" were glutamic acid, alanine and anserine. The contents of glutamic acid were $3.5\%\sim37.5\%$, and $18.6\%\sim77.6\%$ of total free amino acids, respectively.

キーワード: いずし Izushi; 切り込み Kirikomi; 伝統食品 Traditional food; 微生物汚染 Bacterial contamination; 食塩濃度 Salt contents; 遊離アミノ酸組成 Free amino acids composition

はじめに

いずしは主に東北地方の北部及び北海道で製造される魚の発酵食品である。その製造方法はサケ,ニシン及びカレイ等の生魚とニンジン,ダイコン等の野菜類,飯,麴および酒,酢等の各種調味料と共に重しをして漬け込んだものであり,11月下旬から2月までの冬期間を中心に製造される¹⁾。切り込みもいずし同様にサケ等を食塩,麴等と漬け込んだ発酵食品であり,上記地方で製造されるが野菜類は使用しない。近年これらの伝統食品は食品工業的にも製造されるようになり,

北海道や東北地方の北部以外でも購入できるようになって、身近な食品となった。いずしに関する最近の報告は北海道におけるボツリヌスE菌型食中毒^{2,3)} に関連するものと食文化的観点のもの^{4,5)} が多く、市販品の微生物汚染、食塩量および遊離アミノ酸組成などに関する調査は見られない。そこで、市販いずしおよび切り込みの上記実態を明らかにすることを目的として本調査を行った。

実験材料及び方法

1. 実験材料

実験材料は平成7年4~7月に青森県八戸市内の食料品店などで購入したいずし11検体および切り込み

^{*} 郡山女子大学 (Koriyama Women's University)

^{**} 郡山女子大学短期大学部(Koriyama Women's Junior College)

5検体と同市内の民家で製造されたいずし2検体の計 18 検体である。

2. 実験方法

1) 微生物検査

- (1) 試料の調整:食品衛生検査指針に準じて6)試 料の主として身の部分 10gを 90ml の滅菌リン酸緩 衝液と共にストマッカー (Seward Medical UAC House 製, Lab-Blender 80) で乳状化したものを試料 の原液として、上記指針6)に準じて以下の各種細菌数 の測定を行った。
- (2) 一般生菌数および嫌気性細菌数:一般生菌数 は標準寒天培地(栄研化学製)を用いて、35℃, 48時 間培養後発育コロニー数を測定した。

嫌気性菌の培養には嫌気性菌培養装置(平山製作所 製 M シリーズ, 炭酸ガス置換)を用いた。また, 培地 は嫌気性菌選択分離用 GM 加 GAM 寒天培地 (日水製 薬製)を用い、同培地の平板上に各段階に希釈した試 料 0.1ml を塗抹し 35°C, 48 時間培養後の発育コロニ 一数を嫌気培養による生菌数とした。なお, 同培地上 で発育したコロニーを無作為に釣菌し、上記と同様な 方法で好気培養と嫌気培養を行い、嫌気培養のみで発 育したものを偏性嫌気性菌、両培養で発育したものを 通性嫌気性菌と判断した。

- (3) 大腸菌群および EC テスト:前報ⁿ と同様な 方法で行った。
 - (4) 黄色ブドウ球菌:前報70と同様な方法で行っ

た。

- (5) 乳酸菌:前報⁷⁾と同様な方法で行った。
- (6) 低温細菌: CVT 寒天培地 (栄研化学製) を用 い, 25°C, 72 時間培養後発育した赤色コロニー数を測 定した。
 - 2) ナトリウム,カリウムおよび食塩濃度 前報7)と同様な方法で行った。
 - 3) 水分活性の測定 前報7)と同様な方法で行った。
 - 4) 遊離アミノ酸組成の分析

前報7)と同様な方法で行った。

実験結果および考察

1. 各種細菌汚染

一般生菌数および大腸菌群数等の各種細菌の検査結 果を Table 1 に示した。

いずしの一般生菌数、乳酸菌数、低温細菌数および 嫌気性菌数の対数平均値はそれぞれ, 5.45/g, 3.74/g, 1.76/g 及び 1.62/g であった。切り込みの場合の各種 細菌数はそれぞれ、5.97/g、2.65/g、2.29/g 及び 0.54/ gであった。大腸菌群は自家製のいずし1検体から検 出されたが、E. coli およびブドウ球菌はいずしおよび 切り込みともすべて陰性であった。

嫌気性菌数は著者らが先に報告した野菜の発酵食品 であるキムチ⁸⁾の対数平均値5.64/gを下回った。ま た、嫌気培養で発育の認められたコロニーを無作為に

Table 1. Bacterial contamination of "Izushi" and "Kirikomi"

Item	Min.	Max.	Mean±S. D.*1	
Izushi (n=13)				
Bacteria count (log./g)	2.88	8.04	5.45 ± 1.20	
Lactic acid bacteria (log./g)	<1.47	6.00	3.74 ± 1.86	
Psychrotrophic bacteria (log./g)	<1.47	4.42	1.76 ± 1.51	
Anaerobic bacteria (log./g)	<1.47	4.38	1.62 ± 1.20	
Det	ective ra	atio(%)		
Coliform organisms	7	7.7		
Escherichia coli	. 0)		
Staphylococcus aureus	0)	Ÿ.	
Kirikomi (n=5)				
Bacteria count (log./g)	4.34	7.48	5.97 ± 1.13	
Lactic acid bacteria (log./g)	<1.47	4.79	2.65 ± 1.56	
Psychrotrophic bacteria (log./g)	1.00	3.04	2.29 ± 0.71	
Anaerobic bacteria (log./g)	<1.47	1.70	$0.54 \!\pm\! 0.70$	
Det	ective r	atio(%)		
Coliform organisms	()		
Escherichia coli	.; ()		
Staphylococcus aureus	(

^{*1} Standard deviation

いずしおよび切り込みの細菌汚染、食塩濃度、水分活性および遊離アミノ酸組成について

76株釣菌し、偏性嫌気性菌の割合を算出すると 47.4% であった。この値を上述の平均嫌気性菌数に乗じるといずしおよび切り込みの偏性嫌気菌数はそれぞれ、対数値で1.30/g および 0.30/g となり僅かとなった。従って、嫌気培養によって菌数測定された細菌の大部分が通性嫌性菌の範疇に入るものと考えられた。

2. Na, K, および水分活性

Na, K, Na/K 比, Na 量から換算した食塩濃度およ び水分活性を Table 2 に示した。いずしの Na 量, K 量, Na/K 比, 食塩濃度はそれぞれ, 平均 1,039 mg/100 g, 84.6 mg/100 g, 20.3 および 2.7% であった。また, 水分活性は平均 0.93 であった。切り込みの場合、それ ぞれ同様に,平均2,625mg/100g,88.9mg/100g,45.4 および 6.7% であった。また、水分活性は平均 0.89 で あって, 切り込みはいずしよりも Na 量, 食塩量, Na/ K 比が大きく, 水分活性は低いものであった。なお, いずしと同様に、ニシンを使用した伝統食品として福 島県会津地方にニシンの山椒漬けがある9。著者等10) は、先に、このニシンの山椒漬けについて同様な調査 を行ったが、Na、K、Na/K 比および食塩濃度は、そ れぞれ, 927mg/100g, 282mg/100g, 2.3, 2.3% であ った。いずしを比較すると, Na 量と食塩濃度は類似し たが K 量は少なく, Na/K 比は上回り, 切り込みは K 量以外はいずれも上回った。なお、魚の発酵食品であ るイカ塩辛の Na 量および食塩濃度を食品成分表¹¹⁾ からみると、それぞれ、4,500 mg/100 g、11.4% であ り、いずしおよび切り込みとも大幅に下回った。一般 に、Na は血圧上昇作用が、K は血圧低下作用が知ら れ、また食品の Na/K 比が小さい程健康上望ましいと

される¹²⁾。いずしおよび切り込みは Na 量が著しく多 いとは言えないが、K 量が少ないために Na/K 比が大 きいものといえた。また,水分活性と微生物の発育は 密接な関連があるが13)、いずしの水分活性値では多く の種類の微生物の発育が可能である。しかし、その製 造過程において添加される食酢1)および乳酸発酵によ り生成される各種有機酸による抗菌性が考えられ、一 般細菌の増殖が抑制されるものと推測される。なお、 切り込みの水分活性は酵母、乳酸菌、バチルス属およ びグラム陰性菌等の発育を抑制するものであった13)。 いずしおよび切り込みを原因とする食品危害の発生と しては前述の如く, ボツリヌス E 型菌食中毒が知られ ている。北海道におけるこれらの食品を原因とする食 中毒は 1951 年以降 1988 年までの 38 年間に 54 件の発 生が報告されているが14, 1975年から1987年までの 13年間には6件であり、著しく減少した。しかし、最 近では,1989年に2件¹⁵⁾,1995年に1件自家製いずし を原因としたボツリヌス食中毒が報告されている160。 本菌の毒素産生を支持する水分活性は, A 型が 0.95, B型が 0.94, E型は 0.97 以上である¹⁷⁾。従って, 本調 査のいずしおよび切り込みとも E 型菌の毒素産生条 件を越える水分活性を示すものは認められなかった。 ボツリヌス菌の増殖および毒素産生条件としては温度 および pH も重要な因子となる17)が、それらについて は今後検討したい。

3. 遊離アミノ酸組成

いずしと切り込みの遊離アミノ酸組成を Table 3 および Table 4 に示した。

いずしの場合、フォスフォセリンからアルギニンま

Table 2. Content of sodium, potassium and salt, Na/K ratio and water activity of "Izushi" and "Kirikomi"

Item	Min.	Max.	Mean±S. D.*1
Izushi (n=13)			
Sodium content (mg/100g)	550	1,775	1.039 ± 315
Potassium content (mg/100g)	13	158	84.6 ± 43.4
Salt content (%)	1.4	4.5	2.7 ± 0.9
Na/K ratio	5.2	86.5	20.3 ± 21.1
Water activity	0.898	0.950	0.930 ± 0.010
Kirikomi (n=5)			
Sodium content (mg/100g)	2,050	3,200	$2,625 \pm 365$
Potassium content (mg/100g)	26	148	88.9 ± 40.0
Salt content (%)	5.3	8.1	6.7 ± 0.9
Na/K ratio	14.1	123.1	45.4 ± 39.6
Water activity	0.882	0.913	0.890 ± 0.010

^{*1} Standard deviation

日本調理科学会誌 Vol. 30 No. 1 (1997)

Table 3. Free amino acids composition of "Izushi"

Amino		<u></u>				Sa	mple 1	numbe	r					Mean±:	c D
acid	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 14	No. 15	No. 16	No. 17	No. 18	wiean	э. р. ——
p-ser*1	2.1	1.6	1.2	0.7	2.1	1.3	1.4	11.1	4.2	6.7	_	15.1	8.7	$4.3 \pm$	4.5
Tau	23.4	18.3	8.8	16.2	9.6	10.0	11.3	11.0	12.4	98.1	41.7	8.9	8.7	$21.4 \pm$	23.8
Asp	3.9	6.7	5.2	9.2	5.0	10.4	5.0	9.5	16.3	3.7	19.1	9.2	6.6	$8.4\pm$	4.5
Thr	6.3	5.3	2.4	9.9	3.3	9.3	6.1	9.1	12.3	3.5	14.7	9.5	5.4	$7.5 \pm$	3.5
Ser	4.8	3.9	2.1	8.9	3.0	9.1	6.2	9.5	11.4	1.1	12.5	8.9	6.8	$6.8 \pm$	3.5
AspNH*2	9.1		_			-		18.4	20.0	_	<u> </u>		17.3	$5.0\pm$	7.8
Glu	12.2	14.5	42.1	75.4	27.6	27.3	37.9	19.9	76.5	33.7	303.3	133.0	8.2	$62.4\pm$	
Sar*3	1.4	1.4	_	3.5		2.7	1.1	2.4	7.8		8.9	1.1		$2.3\pm$	2.8
α -AAA*4	3.5	3.8	2.1	7.4	1.0	6.1	2.0	5.9	9.3	1.9	10.5	3.5	0.6	$4.4\pm$	3.1
Pro	3.4	4.1	3.0	4.5	3.9	5.3	4.8	10.2	6.8	9.8	9.0	3.2	4.9	$5.6\pm$	2.4
Gly	6.5	5.0	4.6	8.8	3.2	6.0	6.0	8.1	15.8	273.5	12.1	5.3	4.8	$27.7 \pm$	
Ala	9.8	11.3	7.4	14.9	6.7	19.6	12.6	21.7	21.4	33.2	26.8	12.6	13.0	$16.2 \pm$	7.5
Cit*5	_	_	_		$^{2.5}$	4.8	2.4				.—		-	$0.8\pm$	1.5
α-ABA*6	5.2	3.0	2.2	5.3	_		1.8	3.9	3.7	0.8	4.3	1.3	1.4	$2.5\pm$	1.8
Cys	4.8	3.1	_	4.3				-	8.5	_	9.7	5.9	2.4	$3.0\pm$	3.3
Val	5.9	6.0	5.1	8.2	4.1	11.2	5.2	10.6	13.8	3.5	16.1	7.6	7.0	$8.0\pm$	3.7
Met	7.4	7.5	4.6	12.1	4.5	11.1	8.4	12.3	16.5	1.9	14.8	13.8	5.5	$9.3\pm$	4.3
Cysthi*7	******		4.6	_	2.4		4.3		9.2	1.0	9.3	4.8	2.2	$2.9\pm$	3.2
Ilu	9.6	7.7	6.8	13.9	5.4	12.2	6.6	13.2	16.3	0.6	21.1	11.3	5.7	$10.0 \pm$	
Leu	15.9	22.3	14.6	32.9	13.6	30.8	18.1	32.2	49.0	1.2	46.0	33.6	13.9	$24.9 \pm$	
Tyr	8.2	9.1	7.3	14.8	5.7	12.4	8.7	15.0	19.0		15.6	13.2	6.2	$10.4\pm$	5.0
Phe	8.6	12.1	10.2	16.8	7.1	18.3	13.5	20.7	24.2	0.6	21.6	16.4	8.5	$13.7\pm$	6.5
β-Ala*8		_	_			4.4	7.3	6.5	14.1	0.6		10.2	2.6	$3.5\pm$	
β-AiBA*9	2.8	2.4	2.7	5.6	0.8	2.0	3.3	2.7	5.2		2.6	2.8		$2.5\pm$	
γ-ABA*10	1.5	1.1	1.1	1.3	0.6	1.1	1.0	4.9	3.6	26.8	4.8	2.9	2.6	$4.1\pm$	
EA				·	_	0.9	 .	0.5	3.3	0.3	0.9	1.0	1.6	$0.7\pm$	
Orn*11	1.0	0.9	0.6	0.8	-	0.5	0.3	0.5	2.2	58.8	3.5	1.8	0.7	$5.5\pm$	15.4
Lys	7.4	19.2	11.0	22.6	9.3	31.0	12.9	28.3	17.6	1.1	31.4	15.1	11.2	16.8±	9.0
1 MeHis*12	_	_		_					1.5			_	1.1	$0.2\pm$	
His	8.6	13.4	4.7	44.7	24.4	7.8	5.9	6.4	13.4		122.9	2.5	6.1	$20.1 \pm$	31.8
3 MeHis*13	8.2		_	_					3.6	_	3.9	1.3		$1.3\pm$	2.4
Ans*14	13.6		5.0	12.1	6.5	88.0	92.1	67.5	; —			-	59.4	$27.0 \pm$	34.3
Car*15	3.4				2.8			4.0	3.2	_	6.1	2.2		$2.6\pm$	1.0
Arg	4.8			14.6	6.1			20.4	12.3	1.0	16.1	14.2	9.0	$10.5 \pm$	5.0
Total									454.4	563.7	809.3	372.2	232.1	$344.8 \pm$	183.

Sample number: 13

*1 phosphoserine, *2 asparagine, *3 sarcosine, *4 α -amino adipic acid, *5 citrulline, *6 α -amino butyric acid, *7 cystathionine, *8 β -alanine, *9 β -amino iso butyric acid, *10 γ -amino butyric acid, *11 ornithine, *12 1-metylhistidine, *13 3-metylhistidine, *14 anserine, *15 carnosine

で34種類の遊離アミノ酸が検出された。遊離アミノ酸総量は108.9 mg/100g~809.3 mg/100g で平均344.8 mg/100 mg であった。検体別に最も多かった遊離アミノ酸を見ると、No.3、4、5、14、16 及び17 はグルタミン酸で遊離アミノ酸総量の16.8%~37.5%を占めていた。また、No.6、7、8 はアンセリンが最も多く、それぞれ、24.2%、31.1% および17.5% であった。更に、No.1はタウリンが、No.2 はロイシンが、No.15はグリシンが、そして No.18 は3メチルヒスチジンが

それぞれ最も多かった。全体的に見ると, グルタミン酸, グリシン, ロイシン, アンセリンが多い傾向が認められた。

切り込みの場合もいずしと同様な遊離アミノ酸が検出されたが、その量は374.6mg/100g~1,118.0mg/100gで、平均814.4mg/100gであり、いずしの平均値の2.36倍量であった。No.11を除きいずれもがグルタミン酸が最も多く、遊離アミノ酸総量の29.6%~77.6%を占めていた。全体的に見ると、グルタミン酸、

いずしおよび切り込みの細菌汚染,食塩濃度,水分活性および遊離アミノ酸組成について

Table 4. Free amino acids composition of "Kirikomi"

						(mg/100g)
Amino		Sa				
acid	No. 9	No. 10	No. 11	No. 12	No. 13	Mean±S. D.
p-ser*1	17.9	1.0	1.3	18.1	40.1	15.8± 14.5
Tau	46.8	14.5	14.2	36.1	74.6	37.2 ± 22.5
Asp	11.9	9.5	1.5	12.8	14.9	10.1 ± 4.7
Thr	6.7	4.7	2.0	3.2	9.1	5.1 ± 2.5
Ser	9.4	7.4	2.3	4.0	10.7	6.7 ± 3.2
Glu	836.0	137.4	69.6	708.1	724.9	495.1 ± 323.6
Sar	3.7		· <u>-</u>		_	0.7 ± 1.5
α -AAA*2		2.1		5.7	7.4	3.0 ± 3.0
Pro	6.5	8.3	4.0	10.4	9.4	$7.7\pm\ \ 2.3$
Gly	4.4	104.1	3.6	6.1	6.8	25.0 ± 39.6
Ala	17.5	43.4	162.6	25.4	18.9	53.6 ± 55.3
Cit			_		4.4	0.9 ± 1.8
Cys			. —	3.3		0.7 ± 1.3
Val	8.8	8.3	4.6	11.3	10.6	$8.7\pm\ \ 2.4$
Met	8.6	10.1	1.5	10.3	11.4	$8.4\pm\ \ 3.5$
Ilu	7.1	7.5	1.6	8.1	8.9	6.4 ± 2.6
Leu	19.4	21.6	3.3	19.0	21.8	17.0 ± 6.9
Tyr	8.7	10.3	2.4	10.7	10.4	$8.5\pm\ \ 3.1$
Phe	9.6	10.6	2.3	9.9	10.7	$8.6\pm\ \ 3.2$
β-Ala*3		2.9	1.4	1.0	2.5	1.6 ± 1.0
β -AiBA*4	0.5	1.4		1.4	0.9	0.8 ± 0.5
γ -ABA*5	2.4	2.0	_	2.4	2.1	1.7 ± 0.9
EA*6	1.5	1.3	_	2.3	1.7	1.3± 0.8
Orn*7	1.2	0.7	_	1.1	0.7	0.8 ± 0.4
His	3.3	7.3	2.2	6.2	6.0	5.0 ± 1.9
Lys	27.4	28.0	2.9	33.8	34.1	25.2± 11.5
Ans*8	3.3	4.0	89.6	75.9	58.2	46.2 ± 36.1
Arg	15.2	15.6	1.7	11.5	16.8	12.2 ± 5.5
Total	1,078.0	464.0	374.6	1,037.2	1,118.0	814.4 ± 324.8

*1 phosphoserine, *2 α -amino adipic acid, *3 β -alanine, *4 β -amino iso butyric acid, *5 γ -amino butyric acid, *6 ethanol amine, *7 ornithine, *8 anserine

アラニン,アンセリンが多かった。

なお、いずしではグルタミン酸とグリシンが、切り 込みではグルタミン酸が、それぞれ検体によっては多 量に検出され、遊離アミノ酸総量の多寡にも影響を与 えた。これらの遊離アミノ酸は風味や嗜好性を向上さ せるために添加された調味料に由来するものと推測さ れた。

以上の値をニシンの山椒漬け¹⁸⁾ と比較すると、いずしの遊離アミノ酸総量はニシンの山椒漬けを下回り、切り込みは上回ったが、その主な遊離アミノ酸¹⁸⁾ はグルタミン酸、アラニン、ロイシン、リジンであり、いずしとは共通性が認められた。なお、張等¹⁹⁾ は紀州のサバ馴れずしの遊離アミノ酸について検討し、市販品は熟成が充分に進行していないために、その総量は平

均1,430 mg/100g で、本漬け10日のものより少ないことを、更に、市販品の主な組成はアラニン、ロイシン、バリン等と報告している。いずしと切り込みの遊離アミノ酸総量は、この市販サバ馴れずしの1/4 および2/3量と少なかったが、ロイシンが多い点では共通性が認められた。また、イカの塩辛の遊離アミノ酸量²⁰⁾は平均3,130.8 mg/100g であり、いずしおよび切り込みはそれぞれ1/10 および1/3量であった。

要約

いずしおよび切り込みの細菌汚染,食塩濃度および 遊離アミノ酸組成等について検討し,次の知見を得た。 1. いずしおよび切り込みの生菌数の対数平均値は それぞれ,5.45/g および 5.97/g であった。全体の大腸

日本調理科学会誌 Vol. 30 No. 1 (1997)

菌群の検出率は 5.6% であったが, E. coli および黄色 ブドウ球菌はいずしおよび切り込みとも検出されなかった。

- 2. いずしおよび切り込みの食塩濃度、K量および水分活性はそれぞれ、2.7%、 $84.6\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}$ 、 $0.93\,\mathrm{f}$ よび 6.7%、 $88.9\,\mathrm{mg}/100\,\mathrm{g}$ 、 $0.89\,\mathrm{c}$ あった。
- 3. いずしおよび切り込みの平均遊離アミノ酸総量は 344.8 mg/100g および 814.4 mg/100g であった。主な遊離アミノ酸はそれぞれ,グルタミン酸,グリシン,アンセリン,ロイシン,およびグルタミン酸,アラニン,アンセリン等であった。遊離アミノ酸総量のうちグルタミン酸量の占める割合はそれぞれ平均 15.9% および 51.8% であった。

文 献

- 1) 乙坂ヒデ編著:東北北海道の郷土料理, p. 208, ナカニシャ出版 (1994)
- 2) 安藤芳明:食品衛生学雑誌, 22, 455 (1981)
- 3) 相川孝史, 亀山邦男, 武士甲一, 三田村弘, 本間寛: 北海道衛生研究所報告, **40**, 74 (1989)
- 4) 本間伸夫, 渋谷歌子, 石原和夫, 佐藤恵美子: 県立新 潟女子短期大学紀要, **26**, 41 (1989)
- 5) 加藤隆昭:鳥取県立博物館研究報告, 28, 13 (1991)
- 6) 厚生省環境衛生局監修: 食品衛生検査指針 I, p. 117

- 日本食品衛生協会(1973)
- 7) 角野猛,会田久仁子,角野幸子,山田幸二:日本調理 科学会誌, **29**, 212 (1996)
- 8) 角野猛,会田久仁子,金子憲太郎,金田尚志:日本調理科学会誌,28,253(1995)
- 9) 星孝三:会津の郷土食, p. 51, 企画パル (1991)
- 10) 角野猛,会田久仁子,星夕ネ,湯田悦子,馬場又平, 諸岡信久,山田幸二:食生活総合研究会誌,3,45(1993)
- 11) 香川綾監修:四訂食品成分表, p. 101, 女子栄養大学出版部(1992)
- 12) 林淳三, 高橋徹三:栄養学総論, p. 93, 建帛社(1989)
- 13) 河端俊治:食の科学, 39, 76 (1977)
- 14) 相川孝史, 亀山邦男, 三田村弘, 本間寬, 渋谷直道: 北海道衛生研究所報告, **40**, 71 (1990)
- 15) 相川孝史, 亀山邦男, 三田村弘, 本間寬, 渋谷直道: 北海道衛生研究所報告, 40, 74 (1990)
- 16) 日本食品衛生協会:食品衛生, 1, 72 (1996)
- 17) 倉田浩, 坂井千三:食品の衛生微生物検査, p. 61, 講 談社(1983)
- 18) 会田久仁子, 星夕ネ, 湯田悦子, 馬場又平, 角野猛, 諸岡信久, 山田幸二: 食生活総合研究会誌, 4, 45(1993)
- 19) 張俊明, 大島敏明, 小泉千秋:日本水産学会誌, **58**, 1961 (1992)
- 20) 角野猛,会田久仁子,角野幸子,金子憲太郎,山田幸二,柳大河,黄鎬観:韓国食文化の日本への影響に関するシンポジウム論文集,p. 76 (1991)

(平成8年4月9日受理)